

環境配慮型舗装を実施しました

多治見砂防国道事務所

多治見砂防国道事務所は、多治見市と連携して、国道や市道の一部のバス停歩道部において、多治見地場産であるタイルのリサイクル材を使用した舗装材で太陽熱を反射し、冷却効果に優れた環境配慮型舗装を試験的に実施します。

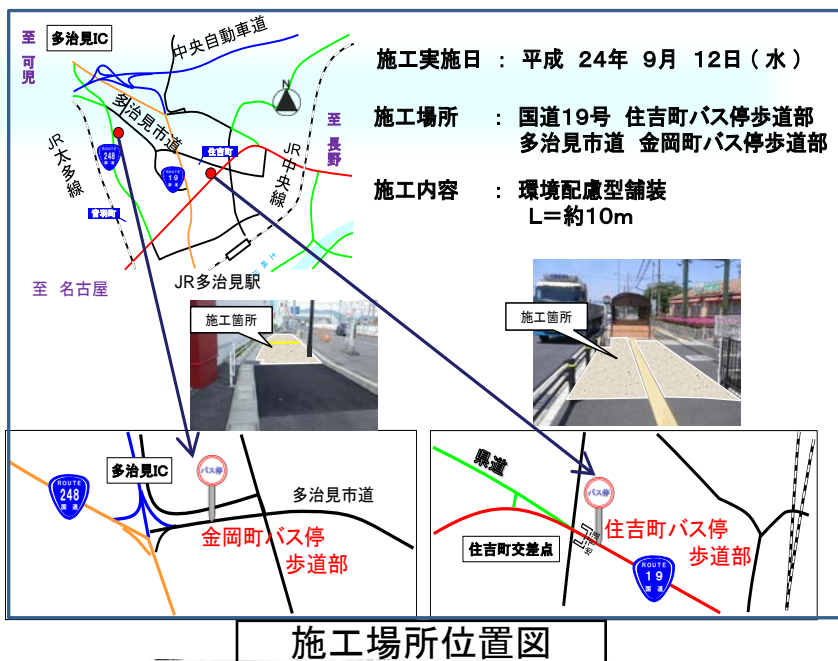
平成24年9月12日(水)に、国道19号住吉町及び金岡町バス停歩道部にて、約10mの舗装を実施しました。



施工中(住吉町バス停歩道部)

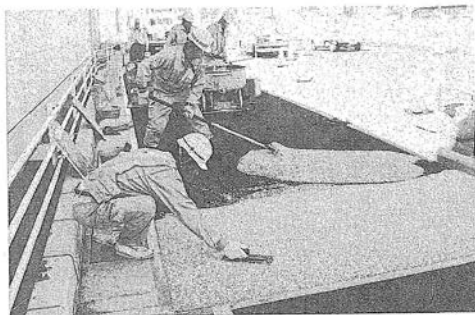


施工後(金岡町バス停歩道部)



「冷却舗装」の実験開始

国土交通省と多治見市 バス停の歩道に施工



建設省と多治見市が始めたクールアイランド舗装実験
=同市金岡町

国土交通省多治見砂防国道事務所と多治見市は12日、市内のバス停歩道部分に、多治見地場産タイルのリサイクル材を使用した環境配慮型舗装を施工し、実験を開始した。施工したのは、市内の住吉町バス停と金岡町バス停の2カ所の歩道。面積は合わせて約70平方メートル。

クールアイランド舗装は、透水性のある既設歩道に、特殊な樹脂で張り付けられるハイブリッド舗装と呼ばれる改良型。施工後は、温度比較調査を実施する。クールアイランド舗装は、地域のタイル廃材を使用した環境配慮型舗装で、マレーシア工科大学の岩尾憲三教授が提唱する「太陽熱反射都市冷却理論」に基づいて開発された。(藤田聡)

岐阜新聞
H24.9.13

